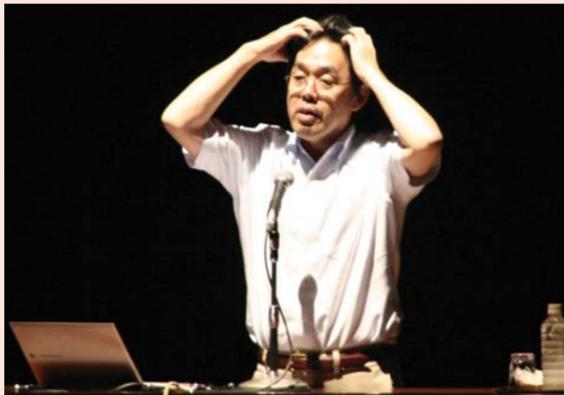


頭使って脳の老化を防止

8月10日、恵那文化センターで、DS脳トレ、大人のドリルなどで有名な、東北大学加齢医学研究所医学博士の川島隆太教授による「読み・書き・計算が脳の老化を防止する」と題した認知症予防講演会が行われ、約660人が来場しました。

川島教授は、人間の脳の機能についてユーモアあふれる説明を行い、「いい話が聞けた」「ためになる話だった」などと満足そうに帰っていく参加者の姿が見られました。



ユーモアあふれる講演をする川島教授

暑いときは流しそうめん

8月10日、大井小学校で、「地域のおじさんおばさんは私たちの先生」と題し、流しそうめん大会が行われました。これは、季節の行事や昔の遊びなどを通して、故郷への愛着と、地域で子どもたちを守り育てる意識を向上させようと、大井町まちづくり協議会教育子育て部会が企画しました。

参加した約100人の親子は、夏の暑さも忘れ、流れるそうめんを上手に取り上げ、おいしそうに食べていました。



おいしそうに流しそうめんを食べる子どもたち

すみがせやな アユをがぶり、澄ヶ瀬築



一生懸命にアユを捕まえようとする園児たち

上矢作町の住民20人で構成する澄ヶ瀬ヤナ組合(松岡昭雄組会長)は、8月1日のオープンに合わせ、築場に上矢作保育園の園児40人を招待しました。この日は、築場で実際にアユに触れてもらおうと、特別にアユのつかみ取りが行われました。園児たちは必死で逃げ回るアユをつかみ、あちこちで「やったあ！捕れた！」と歓声が上がりました。その後、じっくり焼き上げられたアユの塩焼きを味わい「全部食べちゃった」と満足気でした。

2泊3日のてくてくの旅



真夏の暑い中おそろいのTシャツで歩く参加者

市内50%を2泊3日で歩く「第2回恵那てくてくの旅」が、8月8日から10日に実施されました。恵那青年会議所主催で、参加したのは小学校3年生から6年生の児童87人。岩村公民館を出発した一行は、初日に三郷小学校、2日目は恵那北小学校で宿泊しました。ゴールの恵那文化センターまで、10のグループに分かれた参加者は、それぞれ励まし合ったり、力を合わせたりして歩き抜き、大きな夏の思い出をつくりました。

科学の不思議で遊ぼう

7月31日、8月1日の2日間、市中央図書館の玄関横のスペースで三郷小学校田中広佳先生による理科のおもしろ実験が行われました。同図書館では、夏休みの自由研究の資料を紹介しており、紹介だけではなく実際に実験もやってみようと、天の川イベントの一環として図書館サポーターが企画しました。会場ではさまざまな実験が行われ、ドライアイスから発生した二酸化炭素で火を消す実験など、科学の不思議に子どもたちは目を輝かせていました。



ドライアイスで、ろうそくの火を消す実験の様子

力士のちゃんこを味わう

千畳敷公園春日野記念相撲場を稽古場に、毎年恒例の入間川部屋夏合宿が行われ、8月2日、力士お手製のちゃんこを味わってもらおうと、明智文化センターで「ちゃんこ会」が開かれました。

会場では、塩味としょうゆ味の2種類のちゃんこ約200杯分が用意され、明智町出身の力士、恵那司(水野千浩さん)らが直接取り分け、来場者は、夏バテ解消の栄養満点なちゃんこをおいしそうに味わいました。



ちゃんこを待ち遠しそうに眺める子どもたち

地域自治区の活動発表会

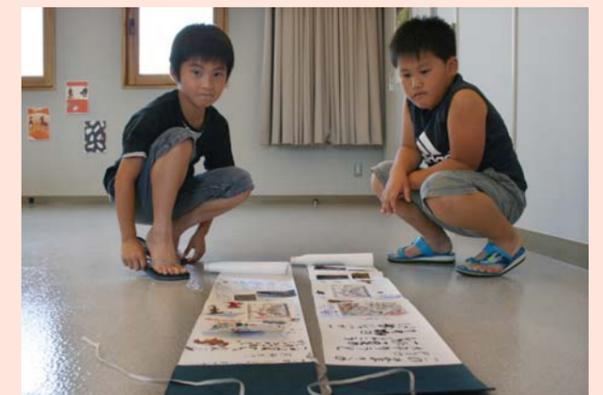


武並町地域自治区の活動を発表する代表者

「恵那市地域自治区活動事例発表会」が、7月24日恵那文化センターで開催されました。市内13地域の地域自治区の代表者が、活動の内容や課題などを、参加者約400人に紹介しました。

昨年度に実施した事業は全体で160あり、安心・安全のパトロールや、環境保全の事業として不法投棄監視、歴史・文化を継承する事業の実施などさまざまでした。地域でアンケート調査を行って、実施する事業を決めている事例もありました。

世界に一つだけの絵巻



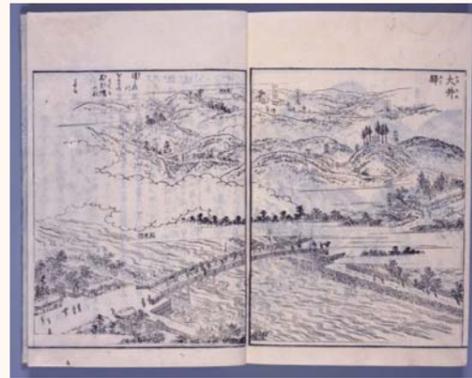
完成した絵巻と子どもたち

7月26日と27日、中山道広重美術館で、小学校低学年の児童を対象に、こどもびじゅつかん「わたしだけのヒーロー・ヒロイン絵巻をつくらう」が開催されました。絵巻には、石川五右衛門や宮本武蔵など当時のヒーローやヒロインなどの塗り絵を張り付けたり、スタンプで刷る大井宿の重ね刷りなどを張り付けたりして、自分だけの絵巻を作り上げました。この日は前半に美術館探検もあり、参加した児童たちは浮世絵を身近に感じることができました。

中山道広重美術館
特別展観

会期
9/4(木)～9/28(日)
開館時間 午前9時半
～午後5時(入館は午後4
時半まで)
観覧料▷大人=800円
(団体650円)▷小・中・高
校生=500円(団体400円)
毎週月曜日(祝日を除く)、
祝日の翌日(土日・祝日を除く)、
9/11(月)～3(火)は展
示替えのため、9/16(火)・24
(水)は祝翌日のため休館
問い合わせ 中山道広
重美術館☎20-0522

広重没後150年記念
『広重と木曾海道六拾九次之内の旅』展



秋里籬島/著 西村中和/画
「木曾路名所図会」

田中コレクション
1805(文化2)年

歌川広重没後150年にあたり、広重の名作「木曾海道六拾九次之内」を全点そろいで展示します。そのほか、中山道に関する江戸時代の書籍(版本)もご紹介いたします。

図は、中山道の名所図会(絵入りガイドブック)『木曾路名所図会』の大井宿。大井川(現在の阿木川)に架かる大井橋をふかんのにとらえています。画中には西行塚、西行坂、西行硯水、七本松など大井宿の名所・旧跡も描かれています。

9月6日(土)は広重の命日
没後150年を記念し、広重の命日である9月6日(土)は観覧無料とします。

第1日曜日は市民の日
毎月第1日曜日(9月7日)は「市民の日」とし、市民に限り観覧無料とします。

文化財を巡る

岩村城跡の基本(その2)
今回は、小説やドラマの世界との混同が見られる戦国時代の二人の人物を取り上げます。
戦国時代の城主あれこれ～女城主と森蘭丸
“女城主の里”として岩村の代名詞ともなっている女城主。小説では「お津也」、「お艶」、「お直」などと呼ばれていますが、歴史的な根拠は何もありません。『岩村町史』では夫の遠山景任を遠山修理亮とする2次資料があることから「修理夫人」としています。織田信長の叔母(父親信秀の妹。一説には姉とも)で、岩村城主遠山景任に嫁いだことは、ほぼ間違いないようですが、戦国時代の系図は大半が後の時代に作られたもので、100%信頼できるものは少なく、女性にいたっては一部を除けば「女」としか表記されていないため、本当の名前はまったく分からないのです。従って、『甲陽軍艦』にある「岩村殿(遠山景任)後家」とか、素直に「景任未亡人」と呼ぶのが適当ではないかと考えられます。
森蘭丸は、活躍当時の古文書で確認できる名前は「成利」。幼名も「乱」、「乱丸」、「乱法師」と書かれていて、「蘭丸」は後世に創作された名前とされています。

す。天正10(1582)年、武田攻めの功により岩村城を与えられたのは、太田牛一『信長公記』では、同じ信長近習の団忠正、江戸時代に民衆に広がった小瀬甫庵『信長記』では森蘭丸としています。現在は、信長の足跡をたどるためになくてはならない資料として『信長公記』の評価が高く、森蘭丸岩村城主説は旗色が悪いようです。

問い合わせ 文化課☎43-2112(内線217)



いつ6段になったのか?石垣もまだ謎が多い

中高生が赤ちゃんと触れ合う

こども元気プラザで、子育てを体験してみたい中高生を対象に、8月21日、22日の2日間、「乳幼児ふれあい体験」を開催し、市内の中高生6人が参加しました。「ここにこ広場」の活動では、実際に乳幼児に触れて一緒に遊んだり、保護者の方と交流を行ったりして子育てを学習しました。参加した長谷川奏さん(恵那東中1年)は「赤ちゃんと接していると楽しいんだなと思いました」と、最後まで楽しそうに赤ちゃんと触れ合っていました。



赤ちゃんと楽しそうにふれあい遊びをする生徒(中)

心に響く支え合う音色



夫婦で活動しているエスペランサによる演奏

市民有志でつくる「男女のわ」ネットワーク(代表 坪井弥栄子さん)と市は、男女共同参画の意識を市民に広めようと、8月17日、恵那文化センターで男女共同参画プラン「認めあう優しい心と心のはあもにい」トーク&コンサートを開催しました。

コンサートは、妻が難病に侵されながらも夫婦で協力し、演奏活動をしている二人組みによるもので、支え合いながら病気に立ち向かう二人の優しい音色は、訪れた約300人の観衆の心に響きました。

伝統のいわむら城址新能

城下町の歴史を感じられる「いわむら城址新能」が、8月23日、雨天のため岩村城藩主邸跡から会場を変更して、県立恵那南高等学校岩村校舎の体育館で開催されました。主催は「いわむら城址新能実行委員会(実行委員長 宮澤博光)」。

火入式で始まった新能は、仕舞に続き、宝生流の能「三山」「鶴」、狂言「舟船」が披露されました。集まった約450人の観客は、厳格な中に繰り広げられる舞台に、絶賛の拍手を送りました。



辰巳満次郎さんらが演じる能「鶴」

一人でも多くの看護師を



看護師(中)に習い患者さんの足を丁寧に洗う生徒(右)

8月21日、市立恵那病院で高校生が患者の看護を手伝う「ふれあい看護体験」が行われました。これは、看護体験を通して看護の厳しさや楽しさを学び、一人でも多くの若者に看護師を目指してもらいたいと計画されました。

体験には、恵那・坂下・中津高校から1、2年生8人が参加。看護師から指導を受けながら、患者の足浴や体重の測定を行ったり、積極的に患者さんに話し掛けたりしました。